

私たちの町の神社

～神社マップで認知度アップ～

本研究は身近な歴史的建造物である神社の魅力・課題に迫り、地域の活性化に活用することを目的としている。SDGsの「住み続けられるまちづくり」がテーマの出発点である。探究を進める中で、人材や資金の不足が原因で神社の魅力を活かしきれないという難しさと、地域をつなぐ神社の大切さ、そして神社に眠るたくさんの魅力に気がついた。最終的には、高校生にできる広報活動として、自分たちの地域の神社マップ作りに取り組んだ。

キーワード: 神社, 伝統, 地域活性化

I. はじめに

1) このテーマになるまでの過程と自身の探究内容に対する考え

班員で、それぞれの興味があるテーマを持ち寄って話し合った結果、「国際比較」や「社会」、「建築」などのキーワードが浮かび上がってきた。それに基づいて、SDGsのどのゴールに焦点を当てるのかを考え、11番の「住み続けられるまちづくり」をテーマの軸にすることとした。そして「住み続けられるまちづくり」を妨げているものとして私たちが考えたのは、「地域の過疎化」である。

そこから私たちが着目したのは、観光資源としての歴史的建造物だ。世界中の、歴史的な町並みや建造物を観光スポットとして利用し、地域の活性化を果たした事例を取り上げようと考えた。しかし、3 minutesなどの学校内での発表を通して、先輩や先生方から「対象が世界だと広すぎるので絞ったほうが良い」とのアドバイスを多く頂き、次第に国内へと視点を移動した。さらに、身近な歴史的建造物である神社を取り上げることにし、お葬式やお墓参りなどで利用される寺院と違い、宗教的な目的で活用されることが近年少なくなっている神社をテーマに選んだ。

探究活動をするまでは神社にほぼゆかりはなく、知識も無かったため、最初はどうな探究になっていくのか見通しが持てなかった。探究活動を行っていく中で、神社が日本の大切な文化であることを知っていき、自分自身も神社の魅力に気づくことができた。他の班の多くが実験を交えた探究を行っている中で、広報活動が主であるのが私達の班独自の特徴だと思う。また、現地調査やインタビューが中心的な活動だったため、たくさんの人と関わることになり、神社に対してだけでなく、もっと広い部分の考えを深めることができた。学校外で、働く人々のお話を聞いたのはとても貴重な体験だったと思う。

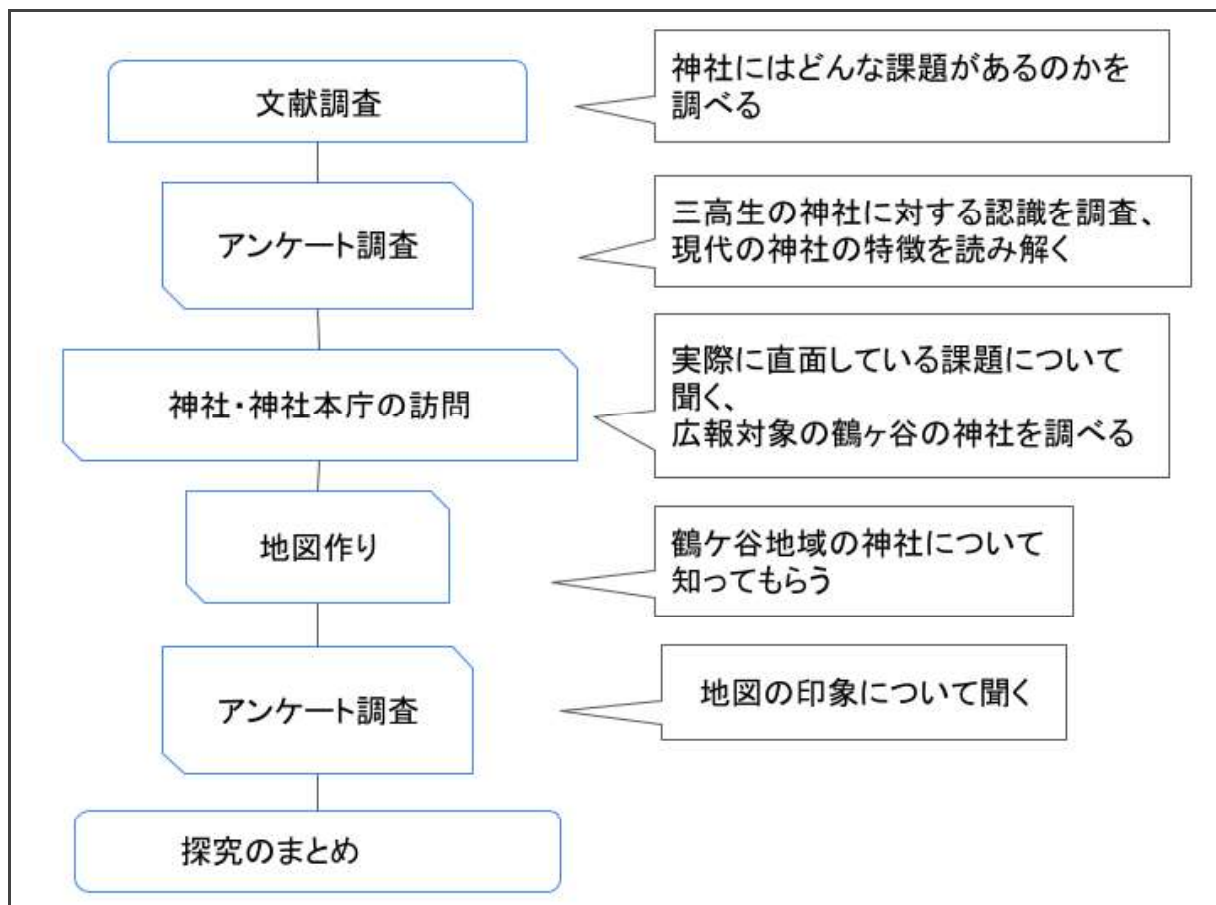
2) 新聞スクラップ

火災で焼損した神社の再建に関する記事。氏子らがクラウドファンディングを利用して再建のための費用を集めようと奔走しているとある。この記事からも分かるように、神社の再建やその他の運営に必要な資金は国や市町村から出るわけではなく、そこで働く人々が資金繰りを担わなければならないという課題がある。神社の経営は代々家業として行われる場合が多いわけだから、たいてい金銭面の運用などを専門にする者がいないので、この現状は経営者の負担を大きくしていると思う。記事でも取り上げられている通り、この神社では長い歴史があった大絵馬も焼損してしまっている。そういった年代物は修復に特殊な材料、技術が必要になり、現代では再現が困難な場合が多いという現状もある。

II. 研究方法

まずは神社に関して十分な知識をつけることから始めた。その後は三高生の神社に対する認識を調査しつつ、実際に神社やそれに関連する団体に接触することを繰り返した。最終的な広報活動として、地図の作成を行った。表1が全体的な流れを示している。

表1 研究方法のフローチャート



Ⅲ. 研究過程

1) 活動の時系列・内容

表2 活動の時系列・内容

活動時期	場所	内容	メモ
2022年10月		探求開始	
		神社についての調査(先行研究)	本、インターネットで行った

活動時期	場所	内容	メモ
11月		イノベーションフェスタ	
2023年1月	瑞鳳殿・青葉神社	宮司さんやガイドの方にインタビュー	神社、観光地の課題を知る
4月		全校クラスルームでアンケート調査	高校生の神社に対する認知度、関心度を調べる
5月		探究の日	
7月	宮城神社本庁	職員の方にインタビュー	全国の神社の実情、実例を知る
		神社マップの作成を考案	
10月	鶴ヶ谷周辺神社	実際に訪問してみる	マップに乗せる神社の候補を調査
11月		イノベーションフェスタ	
12月	京都の神社、神社本庁	修学旅行での自主研修	他県の神社の実情神社の実情を知る
	立命館宇治高等学校	外部発表	他校の生徒との交流
2024年1月	鶴ヶ谷周辺神社	東仙台方面の神社を訪問	所要時間などの確認
		地図作り開始	
3月	宮城第一高等学校	外部発表	他校の生徒との交流
5月		完成した地図をクラスルームに掲示、アンケート調査	完成したマップの効果を調査
		探究の日	

2) 各活動の詳細

① 文献調査

参考にした文献には「文化資源の高付加価値化」(文化庁)「通商白書」(経済産業省)その他各神社のHP、神社本庁HPなどがある。

調査の結果、現代の神社には

- ・「防災」…災害大国日本でどのように被害を防ぐか
- ・「再建・改装」…どのように復旧させるか、資金繰りはどうするか

- ・「資金」…運営に必要な資金不足をどうするか
- ・「人材」…少子高齢化による高齢化、人手不足をどうするか
- ・「認知度の格差」…規模が小さい神社の認知度をどう上げるか

という大きく分けて5つの課題があることが分かった。これらを軸に校内での探究発表を行い、観光資源としての神社という側面に注目していた私達は「認知度の格差」に重点をあて、その是正を目指すという方向性を固めていった。

②アンケート調査1

三高の全校生徒に向けてClassroom を通してアンケートを実施した。そこから分かったことは、

- ・神社に定期的に行く人はとても少ないという現状
- ・祭りや初詣などのイベント、年中行事を目的に神社に行く人が多い ということだ。

図1 アンケート結果①

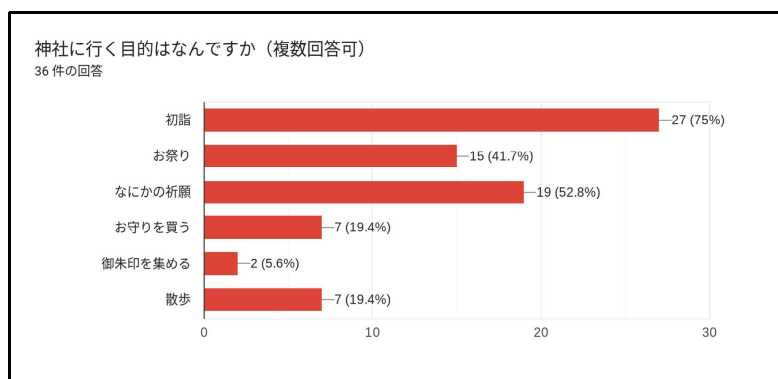


図2 アンケート結果②

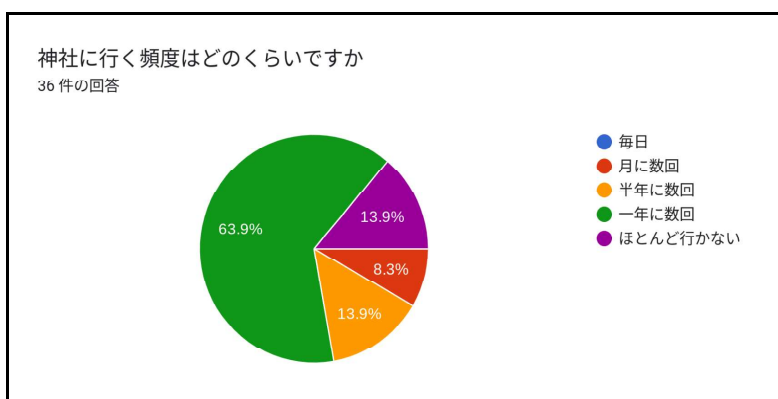
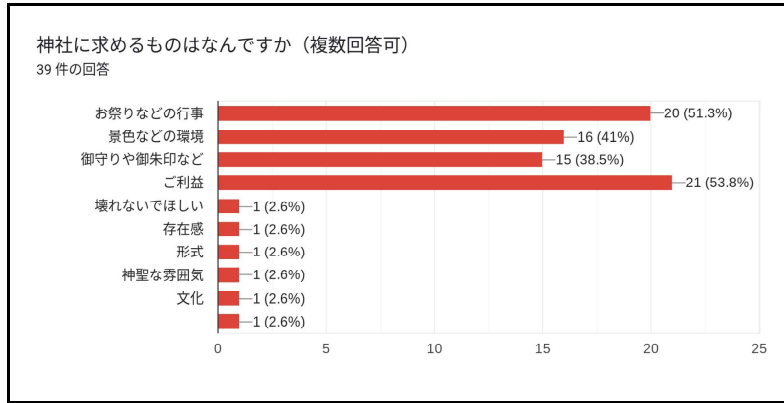


図3 アンケート結果③



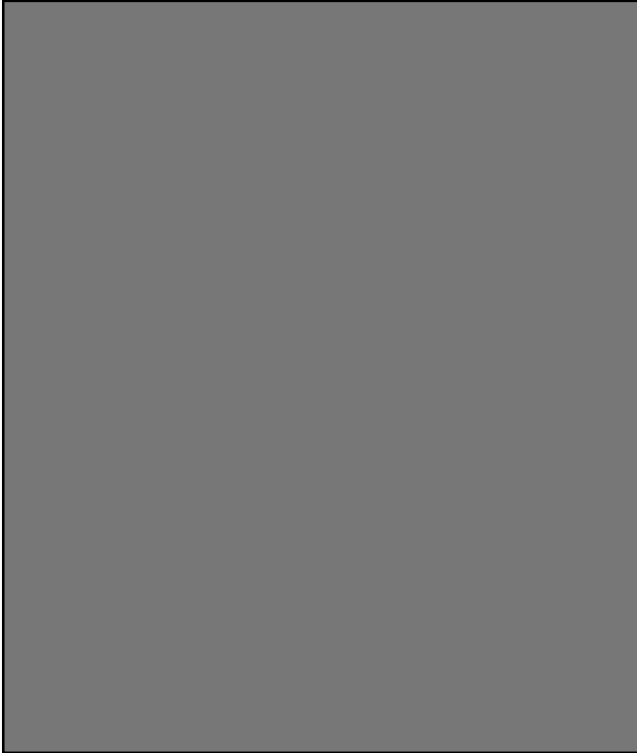
③神社での現地調査

今まで現地調査は、宮城県内では「青葉神社」「瑞鳳殿」で行い、修学旅行先の京都では「松尾大社」「梅宮神社」で実施した。鶴ヶ谷地域では「小田原神明宮」「東仙台山神社」「諏訪神社」「羽山神社」「八瀧不動神社」「斎兵衛神社」「志賀神社」を訪問した。特徴的だった神社などをいくつか画像で示す。

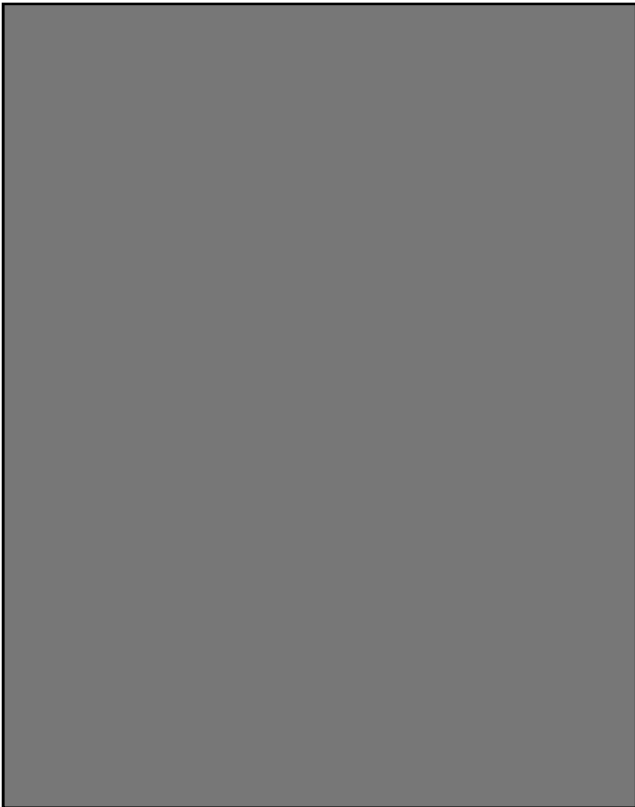
画像1 瑞鳳殿の修繕についての告知



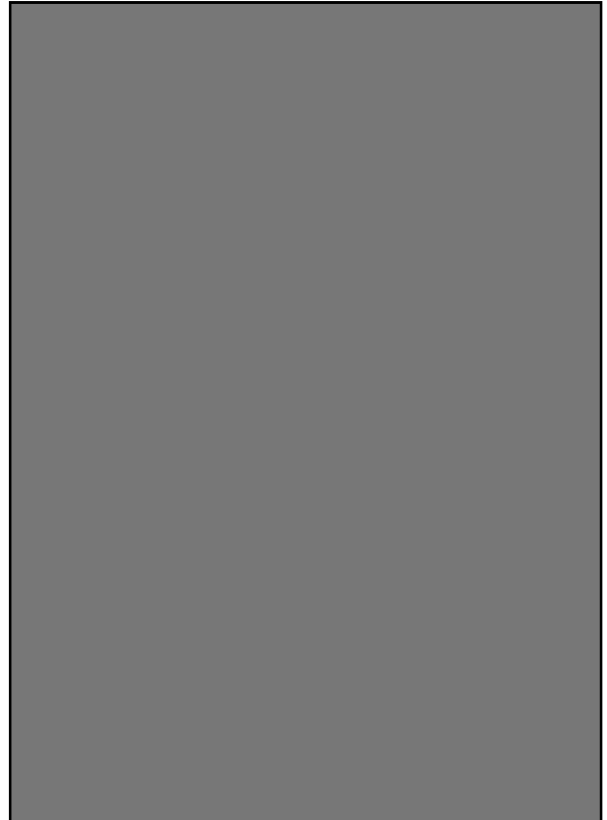
画像2 茶色の鳥居が特徴的な小田原神明宮



画像3 京都の梅宮神社



画像4 京都の松尾大社



神社への訪問ではインタビューを行ったところもあり、それまで文献で調査してきた情報に加えて、現場の生の声を聞くことができた。

新たに分かったこととしては

- ・お賽銭、お守り代、ご祈祷料の3つが資金の主な調達方法であること
- ・人手不足、資金不足に困っている神社が多いこと
- ・日本全体の神社の課題として、神職の給料と休みが少ないこと、神社自体の減少、衰退が進んでいることが挙げられる

という3点だ。

④神社本庁への訪問

宮城県と京都府の2箇所の神社本庁を訪れた。神社本庁とは、県内の神社を総括する組織で、各都道府県にひとつずつ設置されている。

宮城県神社本庁では

- ・関東地方で下半期の健康を祈る”夏詣”という取り組みが実施されていて、イベントの側面を持つようになってきていること
- ・神社は地域のコミュニティとなる役割も持っていること
- ・神社にある大樹が洪水などの被害を防いだり、高台に立地している神社が避難所として利用されるなど防災にも活用できる

ということを学んだ。

京都府神社本庁では

- ・今まで神社が参拝客の減少を打破するために行ってきた取り組みの例
- ・京都内の神社の格差

などを学び、日本国内で神社の文化が盛んな京都内でも、経営難が続いている神社もあるという実情を知り驚いたり、神社内の敷地でサーカスを行うなど、新たな取り組みがなされた例なども知ったりもし、その後の探究活動にも大いに役立てられた。

⑤他校の生徒との交流

修学旅行では立命館宇治高校と交流を行い、京都という大都市にある私立学校で行われている先進的な探究活動に触れることができた。

県内では宮城第一高校での探究発表会を通して複数の高校と交流した。多くの刺激を受けてその後の活動に活かすことができた。

⑥地図作り

高校生の私達が神社の知名度アップに貢献するために、地図を作って配布するという広報活動を考えた。探究活動を通して調べたこと、学んだことを全て活かして地図作りに取り組んだ。神社を巡るコースを考え、実際に回ってみることで所要時間や細かい道のりを確認し、地図に盛り込むことができた。訪れる意欲を引き立てるような写真を撮影できるように試行錯誤し、一目で見やすい地図になるようにレイアウトなどを工夫した。神社をテーマにしたマップであることが伝わるように、デザインにも力を入れた。

画像5 神社マップ

神社マップ



①



🏯 「小田原神明宮」

緑に囲まれた空間
木漏れ日が差し込む暖かな雰囲気
木目の鳥居 ≡

②



🏯 「東仙台山神社」

住宅地に紛れて佇む神社
入口までの道は入り組んでいてまるで秘境のよう
コンパクトでこじんまりとした本殿

③



🏯 「諏訪神社」

閑静な住宅街の中に大きな鳥居を構えている
運が良ければ近くに住んでいる猫たちに会えるかも...

④



🏯 「羽山神社」

田園風景の中に佇む神社
畑のなかにあるので不思議な雰囲気が漂う
青空を背景に真っ赤な鳥居が映えます

○ひとことメモ

全部回る際は
自転車が
おすすめ！

踏切を渡るルート
では
綺麗な夕焼けが
望めます。



～最後に～
アンケートに
ご協力お願いします



⑦アンケート調査2

完成した神社マップに対する感想、意見をアンケートで募った。

アンケートからは

- ・取り上げた神社に興味を持ってくれた人はいたが、実際に足を運んでもらうまでには至らなかった
 - ・神社ごとの歴史など詳細な説明を求める声があった
 - ・デザインなどを評価する声がある一方で、地図としてのみやすさにはまだ改善の余地がありそうだった
- など、良かった点・改善点ともに発見することができた。

図4 アンケート結果④

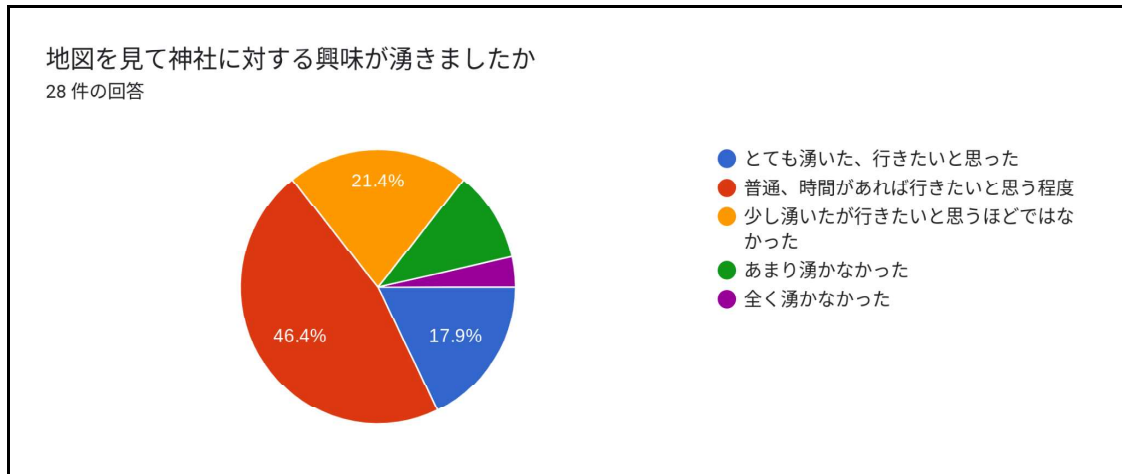


図5 アンケート結果⑤(記述)

さらに地図に記載してほしいこと・改善できそうな点があれば教えてください

12件の回答

写真が暗く見えづらいのももう少し明るくしたほうがいいと思った。地図の引用元と東西南北を書いたほうがいいと思った。

地図内の自転車の所要時間の所で自転車と後ろの吹き出しが重なっていて少し見づらいつと感じた。

地図のデザインと周りのデザインが合っていないように感じました。

文字の色太さ字体を変えればわかりやすくなるかも

「自転車で」という字が小さくて見づらい。
②～④にも三校から自転車で何分掛かるかを書いてほしい。

曲がり角に目印になるものを書いてほしい。

諏訪神社の猫が見たい

最初に見たとき少しマップが小さくて見にくかった

図6 アンケート結果⑥

地図の良かった点があれば教えてください

16件の回答

所要時間が書かれていたこと

ルートが書いてあるためどのようにしていけばいいかわかりやすい。

全体の雰囲気が揃っていてとても見やすかった

写真とポイントのところが神社の雰囲気と、合っていて良かったです。

イラストと写真を使っていて吹き出しとかも使って見やすかった

自転車での所要時間
猫とかの追加情報

それぞれの神社の写真が綺麗でぜひ行ってみようと思った。

見やすく、わかりやすかった

IV. 考察

1) 班の考察

文献及びインタビューの調査によってわかったことは、神社も他の職業と同じくらい、あるいはそれ以上に人手不足や資金不足に悩まされているということだ。特に神社はお賽銭やご祈祷代、臨時的な寄付金によって生計を立てているため、非常に不安定な状態にある。また、そのような状況下で災害等によって建物が壊れたりするとその再建も困難なものになってしまうという課題も存在する。先行研究で訪問した青葉神社もその一例で、東日本大震災によって鳥居が倒壊し、200万円以上の費用で3年経ってようやく再建が実現したようだ。一方で、神社には地域のコミュニティの場や避難所として活用できたり、その地域の歴史や文化の象徴を担うという重要な役割があるため、人手不足や資金不足の課題を解決することは一般のわたしたちにも深く関係してくることだと考えた。

2) 個人の考察

私達の探究の反省点は、地図のクオリティを上げることに時間を割けなかったことや、地図を活用した取り組みを行えなかったことにあると思う。理由としては、地図を作るための情報収集までに時間をかけてしまったこともあるが、そもそも地図で取り上げた鶴ヶ谷の神社の情報が極端に少なかったこともある。神社の規模的に、地図として厚みを持たせるのは難しかった。しかし、これも結果の一つであると言えると思う。今回の探究を通して小規模の神社を活性化することがいかに難しいことかを学んだ。これが神社に限った話でないことも容易に想像できる。人を呼び込むために必要なアピールポイントが充実していない現状を把握できたことも、大きな成果であると思う。

よって、私達の探究の改善点として挙げたいのは、神社の広報についてではなく、神社自体のグレードアップを目的とした取り組みを行うことである。

神社の具体的な魅力は、宮城・京都の神社本庁への調査と、宮城県内で十分な知名度のある瑞鳳殿・青葉神社への訪問を通して学んできた。まずはお守り、おみくじなどのグッズ販売である。鶴ヶ谷神社特有のグッズを展開できれば大きなアピールポイントになったと思う。そして次は、そのために必要になる資金、技術の確保が課題となる。資金の調達にはクラウドファンディングが現実的な方法だと考える。神社の業界ではクラウドファンディングが活発に利用されていることを今までの経験から感じたからだ。グッズの作成も業者に依頼できるとして、デザインやモチーフなどの構想を練るのに、地域の小中学生と協力するのも魅力的だと思う。同時に地域の神社について知ってもらうことにも繋がる。

その他のアピールポイントには、神社の景観がある。これは自分たちの神社マップでも取り上げたことだが、それぞれの神社ごとに外観の特徴があった。その点を更に掘り下げられれば、広報に活かせると思った。しかし同時に、無人の神社では管理が行き届いておらず、老朽化した外観が参拝客を増やすことを妨げる要因にもなってしまうと感じた。神社の清掃のボランティアを募るなど、無人の神社の維持についても改善策を考えてみたい。

また、イベントを行うことで神社をアピールすることもできる。鶴ヶ谷の神社を探索していたときに、高齢者の方にその神社についてお話を伺ったことがあった。その時に、昔はその神社でお花見をするのが恒例であったことを語ってくれた。設備が整っていないことや、少子化などが理由でその文化は絶たれてしまったとおっしゃっていて、過疎化が起きつつある地域では、昔の活気のある町を知っている高齢者の方々が寂しい思いをしているのかも知れないと思った。そういった方々のためにも、地域の歴史を包蔵している神社を活用して、交流の場を提供したいと思った。

V. おわりに

プレ探究のときから、誰かが既に取り組んだものをさらに追求したり、もしくは今まで誰も深めていない事例を見つけることが自分にできるのか、と考えてしまっていた。しかし、探究活動を通して、世の中にはまだ解決されていない課題が山程あるし、どんなことにも更に掘り下げられる余地があると気づくことができた。それでも探究活動にはたくさん苦戦したが、班員と助け合うことで少しずつ進めていくことができた。

また、神社というテーマも気に入っている。神社にフォーカスした探究は珍しいとのコメントをたくさん貰った。それ故に参考にできるものが少なかったが、自分たちだけの探究ができたと思う。日本の代表的な文化でありながら、今まで深く知る機会が少なかったので、探究をきっかけに神社に詳しくなれたのも良かった。これから先も活かせる経験だと思う。

探究を通して、現代社会は神社だけでなくその他の文化財も存続の危機にある時代であると感じた。日本にとどまらず世界にも視野を広げて、それらの問題を自分事のように捉えていきたい。

最後に、本研究にご協力いただいた宮城県・京都府の神社本庁の関係者の皆様、各神社の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

注

参考文献

1) 文化庁「文化資源の高付加価値化」課題解決への事例集 ～上質な観光サービスを求める旅行者の訪日等の促進に向けた文化資源の高付加価値化促進事業～ 令和3年度
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/bunkakanko/pdf/93695702_02.pdf

2) 著者:渡邊研司、松本淳、北側卓
発表年:2012年1月
著書:世界の建築・街並みガイド 2
出版社:エクスマレッジ

3) 著者:佐滝剛弘
発表年:2017年10月
著書:登録有形文化財
出版社:勁草書房

4) 著者:岡田荘司、笹生衛
発表年:2013年4月10日
著書:神社の歴史と祭り
出版社:吉川弘文館

ポスター